

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和8年5月29日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会派名 日本共産党議員団

代表者名 梅津 則行



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	小山秀人
出 張 先	秋田県湯沢市
期 間	令和8年 5月 20日 ～ 令和8年 5月 22日 (3日間)
用 務	議会広報広聴特別委員会の活動
調査(研修) 結果等の概要	別紙参照。
備 考	

注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。

2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

実施日時:2026 年 5 月 21 日(水)9:30～15:30
視察先・件名:秋田県湯沢市「議会広報について」

現地担当職員より、当該事業の仕組みと取り組みの現状について説明を受けた。要旨は以下の通り。

■視察の構成・背景

- 訪問団:釧路市議会広報広聴特別委員会(板谷委員長、松原、小山、藤井)
- 受け入れ側:湯沢市議会、湯沢市議会事務局

比較項目	湯沢市	釧路市
都市モデル	内陸盆地型の小規模自治体	臨海・東北海道の拠点都市
人口スケール	約 4 万人	約 15 万人
議員定数	18 人 (2025 年 10 月改選時)	24 人 (2026 年 2 月に 28 人から 24 人への削減を可決※次期 選挙から適用)
議員 1 人あたりの 人口 (負担度)	約 2,200 人に 1 人 (市民との距離が近く、声 が届きやすい反面、議員個 人の地縁・血縁の影響も大 きくなりやすい規模)	約 6,250 人に 1 人 (広域な拠点都市として効 率性を重視。2026 年の定数 4 削減により、議員 1 人あ たりのカバー領域が拡大)
財政力指数	0.32 前後 (地方交付税依存 型)	0.46 前後 (一定の税収はあ るが不交付には遠い)
経常収支比率	90%台 (硬直化が進む)	95%～98%前後 (インフラ維 持と扶助費で極めて硬直 化)

第一次産業	農業中心：あきたこまち、酒米、三関せり、さくらんぼ	水産業・酪農：全国屈指の水揚げ量を誇る釧路港、大規模酪農
第二次産業	伝統・精密・地熱：稲庭うどん、日本酒、精密電子部品、大規模地熱発電	重厚長大インフラ型：製紙（日本製紙）、坑内掘り炭鉱（釧路コールマイン）、化学薬品
第三次産業	地域密着型：温泉・歴史観光、市内経済圏	広域ハブ型：2つの国立公園を擁する観光拠点、道東の物流・商業・医療の集積地

■湯沢市議会、議会広報の変遷

湯沢市議会では、以前は年4回、各地域に分かれて従来の「議会報告会」を実施していましたが、多くの問題を抱えていたため、令和3年度の議会基本条例検証を機に抜本的な見直し（議会改革）が行われました。

1. 参加者の偏りと固定化:

参加者の大半が高齢の男性や市職員であり、多様な世代（特に若年層や女性）の声を拾えていなかった。人口ピラミッドと参加者層の乖離が顕著だった。

2. 陳情・苦情の場への変化

前段の「議会からの報告」が長くなりがちで、後半の意見交換では行政や議会への一方的な陳情、または特定の参加者による長時間の苦情・発言に終始してしまい、実りある「意見交換」にならなかった。

3. 議員側の心理的負担:

「行くのが嫌になるくらい言われて帰ってくる」状態であり、持ち帰っても議会として具体的な政策立案や提言に結びつけにくい構造だった。

■湯沢市議会の革新的な「広報広聴活動」の具体策

従来の報告会を脱却し、多様な市民が本音で楽しく参加できる場を作るため、以下の3つの柱を中心に施策を展開しています。

1. 議会フォーラム（ワールドカフェスタイルの導入）

a. リラックスした空間作り:

議員はスーツ・ネクタイを脱ぎ、Tシャツやポロシャツなどの軽装で参加（実際写真から議員と参加者が識別できないレベル）。お茶やお菓子を楽しみながら、BGM（音楽）を流すなど、カフェのような雰囲気を作る。

b. ルールの設定:

「相手の批判をしない」「短く簡潔に話す」「沈黙もOK」「意見を変えても良い」などのルールを最初に共有し、要望・陳情の会にしないようコントロール。

c. 段ボール製「円卓」の活用:

座席による上下関係をなくすため、足のない円形の段ボール（天板）をテーブルに置いてフラットな関係性を演出（10枚セットで約7,000円と安価）。



d. シャッフルとラウンド制:

20代～70代の幅広い参加者を地域が固まらないよう班分けし、メンバーを入れ替えながら（第1～第3ラウンド）テーマごとに意見を拡散させる。最後に「いいね」のシールを貼って意見を共有する。

e. 事前の議員研修:

フォーラム実施前に、早稲田大学マニフェスト研究所の専門家（小早内氏）などを講師に招き、議員自身が「模擬ワールドカフェ」を通じてファシリテーションのノウハウをマスターした。

2. 市民1日議会（中高生・女性・一般の登壇）

a. 市民が主役の議場:

市民が実際に議場に入り、質問席から市政への提案を行う。答弁は市長（当局）が直接行い、議員は1人ずつそれに対する「感想」を述べるスタイルを採用。以前は理事者も参加していたが、感想を述べることも難しいため、現在は議員のみ。浜田市議会（<https://www.city.hamada.shimane.jp/www/gikai/index.html>）を参

考にしている。

b. 多様な層の巻き込み:

最初の開催は女性に限った1日議会。当時女性議員は0人だったが、実際の女性議員誕生に繋がった実績がある。また、中高生の生徒会や外部活動の指導者層などを巻き込み、学校の授業（行事）の一環として取り込んでもらうことで、リピーターや口コミでの参加拡大を狙っている。

c. 内容の完全公開:

1日議会で出た生の声や提案は、議員全員で共有し、議事録としてすべてホームページ等で公開している。

3. 自主制作ラジオ番組『ハローハロー町トークゆざわ』

a. FM局との連携:

地元のコミュニティFM（FMコートピア）の枠を使い、年7回（1回30分）の番組を放送。放送料・編集費込みで1回あたり約4万円（年間約24万円～28万円）を議会費から委託料として支出。

◀他都市が視察に訪れたときなどに、タイトルコールをお願いしているそう。

我々、釧路市議会も収録。

b. 全員参加とタイムリーな発信:

特定の議員に偏らず、全議員が均等に出演。委員会ごとの行政視察報告や、議会フォーラムの告知などをタイムリーに行う。

c. デジタル展開:

ラジオの本放送だけでなく、音声データをYouTubeにもアーカイブ配信し、いつでも聴ける仕組みを構築。AI音声キャラクター（小町ちゃん）や動く議長イラストなどを活用した、3分程度の短尺PR動画も事務局が無料アプリを駆使して内製している。

湯沢市議会

<https://www.youtube.com/@%E7%A7%8B%E7%94%B0%E7%9C%8C%E6%B9%AF%E6%B2%A2%E5%B8%82%E8%AD%B0%E4%BC%9A>

■推進体制・予算・デジタル基盤(ICT 活用)

議会改革を持続可能なものにするための仕組み。

- 「広報広聴委員会」への改組とワンチーム体制:
従来の「広報特別委員会」から「広報広聴委員会」へ常設化・改組。委員の中で「議会だより」「ラジオ」「意見交換」「SNS」などの担当分担を明確にし、事務局の負担を軽減。議長主導のもと、議員 18 人全員が「ワンチーム」として動く雰囲気がある。
- グループウェア「ガルーン (Garoon)」の導入:
湯沢市役所本庁と同じシステムを議会タブレットにも導入。
費用: 1 人あたり月額約 600 円～1,600 円 (※年間総額約 52 万 8,000 円)。
メリット: スケジュール管理や開催通知のペーパーレス化だけでなく、イベントのチラシ構成案や議会だよりの校正作業を、ワークフロー上で逐一共有・修正指示できる。全員が集まらなくても、スマホやタブレットへの通知連動で「既読 (見たこと)」がわかり、業務が劇的に効率化された。
- 通信環境の重要性: 災害時や屋外での活用を想定し、通信機能 (セルラー機能) 付きのタブレットとして運用。活動費等から一部補助を出してでも、外で繋がる環境を担保することが必須である。また、DX を推進するため、災害時の連絡テストも兼ねて、月に 1 度のオンライン会議を実施 (議事録なし)。議長や副議長の予定や各委員会開催日時を確認している。広報委員はそのまま残って、校正作業を行うことも。

■今後の課題と釧路市議会への示唆

- やりっぱなしにしない (政策反映サイクル):
フォーラムや 1 日議会が出た「市民の本音 (生の声)」をテキスト化し、議員間でスクリーニング (選別) する。個人の一般質問に活かすだけでなく、議会全体の「政策提言」や国・県への「意見書」にどう繋げていくか、1 本の繋がったストーリー (サイクル) を定着させることが、市民の納得感を生む。
- 事務局の異動・引き継ぎ対策:
現在、動画編集やデザインは優秀な事務局職員の個人スキル (フリーアプリの活用など) に依存している部分がある。人事で職員が変わってもクオリティを維持できるよう、マニュアル化や外部の編集会社との連携バランスを整える必要がある。
- 効果測定の実の向上:
YouTube の登録者数 (現在約 370 人) や「いいね」の数、再生数の突発的な変化などを分析し、ロコミ以外のデジタル広報の評価指標をどう作っていくかが次のステップ。

まとめ

議会改革の方針として、「住民参加」「情勢共有」「議会機能強化」を掲げ、議員個々の活動から、湯沢市議会(ワンチーム)としてのチームプレーを合言葉に取り組みを進めるとしている。

この目標達成のための議会全体での研修強化、専門的知見(早稲田大学マニフェスト研究所)を生かした研修会を実施している。

市民と議会との多様な意見交換の場として、これまでの「議会報告会」に代わる取り組みと)「議員としゃべろうマチトーク!!」、市内の各種団体、グループと市政課題やまちづくりなどについて意見交換する取り組み②「議員と語り合おう。出張!!なんでも意見交換会」、③「自分の思いを議場で発信。ゆざわ市民一日議会」などを実施し、市民と議会との多様な意見交換、広聴機能の強化についての視察をさせていただきました。